

2024年4月24日

NEWS RELEASE

MGC ウッドケム株式会社

パナソニックと三菱ガス化学、CO₂由来のメタノールを原料とする環境配慮型ユリア樹脂を共同開発 — 約20~30%のCO₂削減を実現へ^{※1} —

MGC ウッドケムがCO₂由来メタノールから、
ユリア樹脂の原料となるホルムアルデヒドを製造

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社（所在地：東京都港区、社長：大瀧 清、以下「パナソニック」）と三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：伊佐早 禎則、以下「MGC」）は、CO₂から製造したメタノールを原料とする環境配慮型ユリア樹脂を共同で開発したことを発表しました。この取り組みにおいて、MGC ウッドケム株式会社（本社：東京都千代田区、社長：田代 靖、以下「当社」）は、MGC が CO₂から製造したメタノールを原料にホルムアルデヒドを製造し、パナソニックグループに供給いたします。

ユリア樹脂は熱硬化性樹脂の一種で、優れた耐トラッキング性・耐アーク性を持ち、コンセントなどの配線器具に広く使用されています。一方で、一度硬化すると再溶融が難しく、マテリアルリサイクルが困難であるという課題がありました。

今回の取り組みでは、MGC が CO₂から製造したメタノールを原料に、当社がホルムアルデヒドを製造し、このホルムアルデヒドを原料にパナソニックグループはユリア樹脂とコンセント等の配線器具を製造し、2025 年度以降には環境配慮型ユリア樹脂を使用した配線器具の販売を目指します。

今回開発されたユリア樹脂は、CO₂由来のメタノールを原料に使用することにより、従来のユリア樹脂と比較して約20~30%のCO₂排出量削減が可能となります^{※1}。

当社は、経営理念（MVV）として「化学の力で安全な住環境と持続可能な社会の実現に貢献する」を掲げており、住環境への配慮と社会的価値のある製品開発を推進しています。また、CO₂ や廃棄物からメタノールを介してエネルギーや素材を生み出す環境循環型プラットフォーム「Carbopath™（カーボパス）」を MGC グループ一体となって推進しています。今後も、安全で健康的な住環境の提供とともに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速してまいります。

リンク

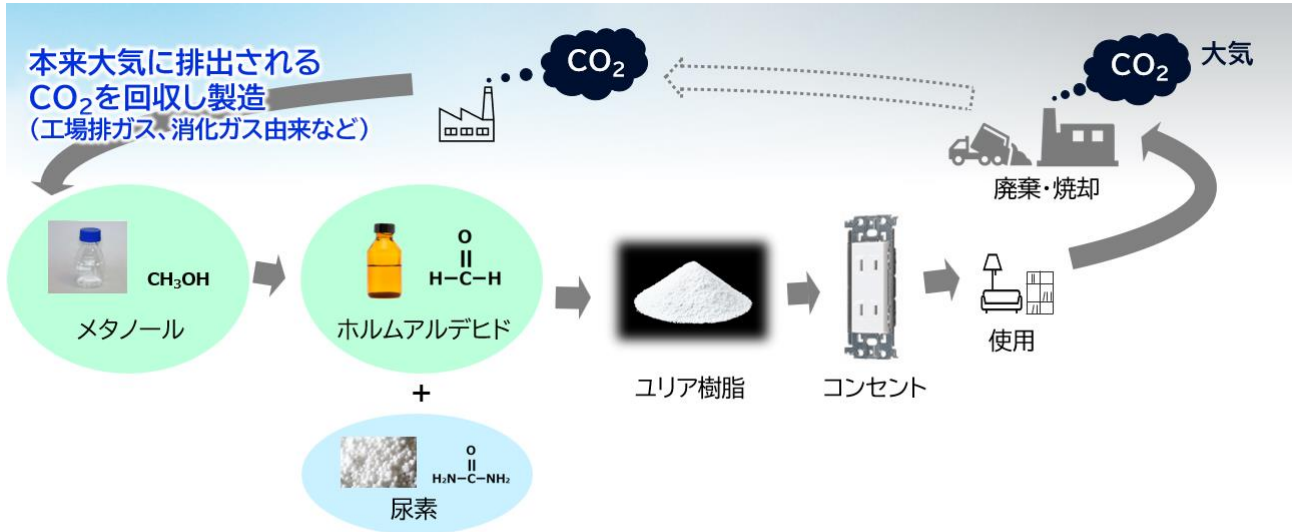
[パナソニックと三菱ガス化学、CO₂ から製造したメタノールを原料とする環境配慮型ユリア樹脂を開発 CO₂ 排出量を従来比で 20~30%削減^{※1} | 当社について | 三菱ガス化学株式会社](#)

注

※1：ユリア樹脂の原材料ベースでの独自試算値。ユリア樹脂の製造加工・運搬に関するCO₂排出量は含まない。

本件に関するお問い合わせ先：基礎化学品営業グループ TEL 03-6285-2817

共同開発の内容



炭素資源を循環させる「カーボンリサイクル」を実現

写真：ユリア樹脂 及び 配線器具の例

